

太政官日誌

中外新聞

萬國新聞

藤下入民告諭大意

第四號第六號

大英國史第十二編

特別
14
696
89





玉泉文庫

*[Faint, illegible handwritten text in cursive script, possibly bleed-through from the reverse side.]*

696  
89

太政官日記

一  
 九月廿五日  
 九月廿六日  
 九月廿七日  
 九月廿八日  
 九月廿九日  
 十月一日  
 十月二日  
 十月三日  
 十月四日  
 十月五日  
 十月六日  
 十月七日  
 十月八日  
 十月九日  
 十月十日  
 十月十一日  
 十月十二日  
 十月十三日  
 十月十四日  
 十月十五日  
 十月十六日  
 十月十七日  
 十月十八日  
 十月十九日  
 十月二十日  
 十月二十一日  
 十月二十二日  
 十月二十三日  
 十月二十四日  
 十月二十五日  
 十月二十六日  
 十月二十七日  
 十月二十八日  
 十月二十九日  
 十月三十日





一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

一 父後父子何時始可... 借古... 族

金取... 抄本

口... 抄本

大砲  
小砲  
小銃  
長刀

長刀

口... 抄本

口... 抄本

口... 抄本

二萬  
十八萬  
二萬  
八千  
八千

天寧寺... 抄本

朝廷莫大... 抄本







出城、並行列

薩州小隊

軍曹房馬

山縣小太衛

切替 野島

肥後

袋入り持

供廻

切替

加馬籠

袋入り持 長將三輝

兩掛二荷

山州一小隊

會津表、山縣、長將、家老、又、子、清、子、西、凡、廿四、日、新、發、是、日、秋、初、列、隊、中、誠、者、名、最、早、言、也、於、此、由、也、廿、日、也

十月四日

北石少將

某日

大政宣日誌

箱館城艦事件一

十月七日

明治元年九月廿五日

箱館城艦事件一

官軍艦隊在箱館城下

川口

大政宣

大政宣

大政宣

大政宣



平守... 諸君... 幸甚... 幸甚... 幸甚...  
此等... 諸君... 幸甚... 幸甚... 幸甚...  
平守... 諸君... 幸甚... 幸甚... 幸甚...  
此等... 諸君... 幸甚... 幸甚... 幸甚...

二村... 影山... 幸甚...

兵士... 川上... 幸甚...

兵衛... 幸甚... 幸甚... 幸甚...  
兵衛... 幸甚... 幸甚... 幸甚...  
兵衛... 幸甚... 幸甚... 幸甚...

右... 幸甚... 幸甚... 幸甚...  
右... 幸甚... 幸甚... 幸甚...  
右... 幸甚... 幸甚... 幸甚...



...の... 渡... 門... 夜... 軍... 子... 身... 以... 未... 領... 子... 激... 山...  
...の... 渡... 門... 夜... 軍... 子... 身... 以... 未... 領... 子... 激... 山...  
...の... 渡... 門... 夜... 軍... 子... 身... 以... 未... 領... 子... 激... 山...

...の... 福... 渡... 門... 夜... 軍... 子... 身... 以... 未... 領... 子... 激... 山...  
...の... 福... 渡... 門... 夜... 軍... 子... 身... 以... 未... 領... 子... 激... 山...  
...の... 福... 渡... 門... 夜... 軍... 子... 身... 以... 未... 領... 子... 激... 山...



新組 右廣瀬村

兼 兵 弘方 不知

古事 右相殿 左相 中村 戰爭 二 節

石 子 物 喜 辰 辰

子 隊 部 千 段 隊

石 室 孫 孫

對 兒

甚 西 文 之 節

石 子 物 喜 辰 辰

子 隊 部 千 段 隊

藤 子

山 村 理 門

子 隊 部 千 段 隊

右 中 四 策 殿 左 七 章 村 戰 争 三 節

白 丸 尚 世

以上

太政官日記等

箱 殿 殿 遊 事 件 二

戊 辰 十 月

招 前 廣 瀬 村 事 件 二 節  
當 月 廿 四 日 廣 瀬 村 戰 争 二 節

殿 三 人 抄 留

志 村 望 吾

殿 二 人 抄 留

馬 承 榮 八 節

殿 一 人 抄 留

備 本 寺 書 部

殿 一 人 抄 留

中 村 泰 幸 節

殿 一 人 抄 留

村 山 利 一 節

殿 一 人 抄 留

尾 名 繁 榮 八 節

殿 一 人 抄 留

松 本 節

殿 一 人 抄 留

新 莊 不 介

殿 一 人 抄 留

且 丸 佐 長 八 節

殿 一 人 抄 留

三 子 卿 孫 六

殿 一 人 抄 留

右 中 四 策 殿 左 七 章 村 戰 争 三 節

殿 一 人 抄 留

白 丸 尚 世

殿 一 人 抄 留

石 子 物 喜 辰 辰

殿 一 人 抄 留

藤 子

殿 一 人 抄 留

山 村 理 門

殿 一 人 抄 留

備 本 寺 書 部

殿 一 人 抄 留

中 村 泰 幸 節



卷五

右の山崎村

中島村

林

右の山崎村... 中島村... 林... 山崎村... 中島村... 林... 山崎村... 中島村... 林... 山崎村... 中島村... 林...

右の山崎村... 中島村... 林... 山崎村... 中島村... 林...

山崎村... 中島村... 林...

右の山崎村... 中島村... 林... 山崎村... 中島村... 林...

右の山崎村... 中島村... 林... 山崎村... 中島村... 林...

右の山崎村... 中島村... 林... 山崎村... 中島村... 林...

右の山崎村... 中島村... 林... 山崎村... 中島村... 林...

右の山崎村... 中島村... 林...

右の山崎村... 中島村... 林... 山崎村... 中島村... 林... 山崎村... 中島村... 林...



能事の由りて事民之敵と雖も上りて

福山守備 慶長五年十一月  
聲傳 慶長五年十一月  
着 福山守備 慶長五年十一月  
宮古港 慶長五年十一月  
己 福山守備 慶長五年十一月  
三 福山守備 慶長五年十一月  
守 福山守備 慶長五年十一月  
水 福山守備 慶長五年十一月  
指 福山守備 慶長五年十一月  
物 福山守備 慶長五年十一月

事 慶長五年十一月  
又 福山守備 慶長五年十一月  
一 福山守備 慶長五年十一月  
村 福山守備 慶長五年十一月  
獎 福山守備 慶長五年十一月  
者 福山守備 慶長五年十一月  
取 福山守備 慶長五年十一月  
石 福山守備 慶長五年十一月  
及 福山守備 慶長五年十一月



也右敵... 實恍惚... 爲此下... 舟... 未... 爲... 不... 爲... 高... 及... 松... 防... 容... 一... 先... 軍... 當...

善... 有... 十... 傳... 籍... 創... 天... 疾... 我... 加... 不... 先... 先... 軍... 當... 皇... 聖... 田... 大...

御覽書院... 皇命... 臣等... 謹言... 伏乞... 聖鑒... 謹奏...

十月 奉批

弘前藩 上野藩

御覽書院... 皇命... 臣等... 謹言... 伏乞... 聖鑒... 謹奏...

十月

徳川侯爵

海陸軍中

津輕 森山 津山

小島 津山

太政官日記

箱館賊艦事件三

明治紀元... 冬十月

十月十四日... 和赤... 箱館... 賊艦... 津山... 森山... 津輕... 海陸軍中...

十月十七日

去月... 和赤... 箱館... 賊艦... 津山... 森山... 津輕... 海陸軍中...

梅後瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死... 瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死... 瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死...

十一日

石川七郎

列... 瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死... 瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死...

十一日

石川七郎

瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死... 瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死... 瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死...

十一日

石川七郎

瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死... 瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死... 瑞山我大皇孫誓廣人救本國身死...

年... 石... 橫濱港... 伊那縣...

十月

右... 伊那縣...

和國中將 村松清

十月... 伊那縣... 官軍...

十月... 伊那縣... 官軍...

伊那縣... 官軍...

伊那縣... 官軍... 津...





以十四日戰事之記

討志

孫五氏之書

楊三之見

李山石師

蔣子

李師之書

李師之書

有八人...

十四日...

孫五氏...

楊三...

以十四日...

若松春... 有中之... 孫五氏... 楊三... 李山石... 蔣子... 李師... 十四日... 孫五氏... 楊三... 李山石... 蔣子... 李師... 十四日...

為本修成水館 向由... 志願... 均... 均...  
 均... 均... 均... 均... 均... 均... 均... 均...  
 均... 均... 均... 均... 均... 均... 均... 均...  
 均... 均... 均... 均... 均... 均... 均... 均...  
 均... 均... 均... 均... 均... 均... 均... 均...

三月廿七

中外新聞 第四號  
 明治二年三月廿六  
 丹地 志願

中外新聞 第四號

明治二年三月廿六

三月廿三 米米告

大政更始 必集諸第一流 言路洞若上下 曾發也...  
 瘡痍無之 天下有志者 毋誠... 固... 志...  
 時無之 建言... 毋... 固... 志...  
 不... 有... 毋... 固... 志...  
 奉... 有... 毋... 固... 志...  
 符... 有... 毋... 固... 志...  
 不... 有... 毋... 固... 志...  
 編... 有... 毋... 固... 志...  
 行... 有... 毋... 固... 志...

三月廿七

行...

至上好る事也 御意に奉り申上る事也

○第三号 本日は公議の同題に就き、修し上りの同題

日誌に於て、少くも修し上りの同題に就き、修し上りの同題

去るより、修し上りの同題に就き、修し上りの同題

三股の横腹、修し上りの同題に就き、修し上りの同題

是の横腹、修し上りの同題に就き、修し上りの同題

与り、修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

考の事、修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題

修し上りの同題に就き、修し上りの同題



物類の多きは昔に比して倍ならず家如く之を以て之を名する銀色の金  
 箔の如きものを用ふる者多し其趣は古くは金箔の如くにして其趣は  
 玻璃の如きものを用ふる者多し其趣は古くは金箔の如くにして其趣は  
 玻璃の如きものを用ふる者多し其趣は古くは金箔の如くにして其趣は  
 玻璃の如きものを用ふる者多し其趣は古くは金箔の如くにして其趣は  
 玻璃の如きものを用ふる者多し其趣は古くは金箔の如くにして其趣は

○桂氏家方金銀丸  
 大人小兒諸病あり効あり他書に詳あり

明治二年三月

柳河氏藏板

○津外新聞のり二號

明治二年三月

○横濱新報紙以て九月の夜集會あり二名何の者も

○三月十四日新設のり二號

○長尾の紙以て九月の夜集會あり二名何の者も

○英人四十八名あり

○我々の紙以て九月の夜集會あり二名何の者も

○心金一あり







天皇 御歳俸

宮中奉養 後宮御普々官部官之俸金等皆此内

百太子

御初年より多御冠の後

太上天皇

諸臣歳俸割

一 百七十万石  
二 百五十万石  
三 百四十万石  
四 百三十万石  
五 百二十万石  
六 百一十万石  
七 百十万石  
八 百十万石  
九 百十万石  
十 百十万石

全 四拾萬兩  
全 五萬兩  
全 拾万兩  
全 拾万兩

一 千五百石  
二 千二百石  
三 千二百石  
四 千二百石  
五 千二百石  
六 千二百石  
七 千二百石  
八 千二百石  
九 千二百石  
十 千二百石

一 百石  
二 百石  
三 百石  
四 百石  
五 百石  
六 百石  
七 百石  
八 百石  
九 百石  
十 百石

一 千石  
二 千石  
三 千石  
四 千石  
五 千石  
六 千石  
七 千石  
八 千石  
九 千石  
十 千石

一 四ノ中ノハ  
 二 三ノ中ノハ  
 三 二ノ中ノハ  
 四 一ノ中ノハ  
 五 〇ノ中ノハ  
 六 九ノ中ノハ  
 七 八ノ中ノハ  
 八 七ノ中ノハ  
 九 六ノ中ノハ  
 十 五ノ中ノハ  
 十一 四ノ中ノハ  
 十二 三ノ中ノハ  
 十三 二ノ中ノハ  
 十四 一ノ中ノハ  
 十五 〇ノ中ノハ

一 〇ノ中ノハ  
 二 一ノ中ノハ  
 三 二ノ中ノハ  
 四 三ノ中ノハ  
 五 四ノ中ノハ  
 六 五ノ中ノハ  
 七 六ノ中ノハ  
 八 七ノ中ノハ  
 九 八ノ中ノハ  
 十 九ノ中ノハ

一 〇ノ中ノハ  
 二 一ノ中ノハ  
 三 二ノ中ノハ  
 四 三ノ中ノハ  
 五 四ノ中ノハ  
 六 五ノ中ノハ  
 七 六ノ中ノハ  
 八 七ノ中ノハ  
 九 八ノ中ノハ  
 十 九ノ中ノハ

右ノ大田ノ多ク  
 乃乃至十二ノ多ク  
 但後夜ノ多ク

明治二年己酉  
 柳河式道後

英國叢師ベリ編  
千八百六十九年

# 萬國新聞

明治二年二月下旬



身入るも改教の誰かに向き合ふ事「下三」に於て老年徒（者）「下三」  
 徒（者）の「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 三百艘の軍艦を牧場の五層を穿て今も英吉利の北西の岸ヨルグワイに  
 上陸せり

作者曰余諸君の畏れ無き人々の一英書より翻譯して吾邦の  
 昔の事と云ふ書かんとす此書は久しと云ふこと凡そ二百五十年前  
 一イギリスの士と云ふ名士の筆の如く奇談多し以て不肖之  
 徒種々困難な途々一時ハ「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 一姓未だ絶倫なき由は於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 能人の教尊しと云ふ書一頁の如く「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 故に許しと云ふ書かんとす此書は久しと云ふこと凡そ二百五十年前

東木の昔の事  
 昔の事人の農家ありて多きものありて「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 此の事「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 の「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て



此の事「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 是と折を「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 の「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 解し「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 ら「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 折す「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 此の事「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 懇切に教諭「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 教訓の理を「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て  
 善く「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て「下三」に於て

萬國新聞 畢  
 英吉利北極海流阿トテニ三月十一日午時極度は港に入津  
 十三日十七日分のロンドンの土物を得信候はるは  
 三月十九日新報を以て送らるる也

大英國

ロンドンに候王太子及王太子妃と共ニ歐羅巴の諸國に遊りて其國若くは  
 諸國の侯爵の御下り河を下りてロンドンに遊りしとあり三月  
 六日ロンドンに議事堂に於て大評議を以て王太子と之の御下り  
 の大要事と起りて王太子ハワットストン侯とありは又  
 三月十三日侯爵トステリトありは侯爵ハ第二の海陸軍の兵員を  
 減とんらんニテスリトありの擢用は極く公平なりと云ふ是を任  
 せらるゝ又海陸軍の兵員を減とんらんを以て國費を省かん  
 りとの此は是るべき也恐くは新報を以て三月十一日ロンドンに於て英國  
 領事官は本國を以て去九月二十六日夜半に東海の邊に  
 支那と英國の官人の邸宅を以て火災に罹りて破壊せり  
 三月十日に於てありて是を以て國費を省かん  
 三月十日に於てありて是を以て國費を省かん  
 やりし如し本年を以て送らるる後人並に誠なりとあり

三月十一日ロンドンに於て議事堂に於て大評議を以て王太子と之の御下り  
 の大要事と起りて王太子ハワットストン侯とありは又  
 三月十三日侯爵トステリトありは侯爵ハ第二の海陸軍の兵員を  
 減とんらんニテスリトありの擢用は極く公平なりと云ふ是を任  
 せらるゝ又海陸軍の兵員を減とんらんを以て國費を省かん  
 りとの此は是るべき也恐くは新報を以て三月十一日ロンドンに於て英國  
 領事官は本國を以て去九月二十六日夜半に東海の邊に  
 支那と英國の官人の邸宅を以て火災に罹りて破壊せり  
 三月十日に於てありて是を以て國費を省かん  
 三月十日に於てありて是を以て國費を省かん  
 やりし如し本年を以て送らるる後人並に誠なりとあり

フランス國

歐羅巴の諸國各はロンドンに於て下八月及下九月の議事  
 會合し不きり三月十三日ロンドンに於て議事堂に於て  
 大評議を以て王太子と之の御下りの大要事と起りて  
 王太子ハワットストン侯とありは又三月十三日侯爵トステリ  
 トありは侯爵ハ第二の海陸軍の兵員を減とんらんニテスリト  
 ありの擢用は極く公平なりと云ふ是を任せらるゝ又海陸軍の兵員を  
 減とんらんを以て國費を省かんりとの此は是るべき也恐くは  
 新報を以て三月十一日ロンドンに於て英國領事官は本國を以て  
 去九月二十六日夜半に東海の邊に支那と英國の官人の邸宅を以て  
 火災に罹りて破壊せり三月十日に於てありて是を以て國費を省かん  
 三月十日に於てありて是を以て國費を省かんやりし如し本年を以て  
 送らるる後人並に誠なりとあり



がわらぬもてをばり最良美なりは横濱破の1と項の  
日本政府の...  
○英領事...  
○船...  
○西...  
○鉄...  
○の...  
○右...  
○左...  
○右...  
○左...  
○右...  
○左...

のきく...  
○...  
日本政府...

私産...  
横濱三番...

亞米利加...  
横濱三番...

帆前船...  
長崎浦...

○方...  
横濱七十番...  
東京築地...

横濱七十番  
東京築地...







佛蘭西國の火輪船 毎月六、七、日頃本國に上り下り支那に  
行く横濱より到着せし船横濱三日後泊の後十日頃支那  
インドより到着し船入洋書林の多量運送此船は若書金銀  
荷物等運送の便月分を分航海より運送の方より運送し  
メサシエリアニペリ元 仲洲出店  
横濱千巻  
エニエル

リニシー社中

機械師 真鍮鉄細工師  
鍛冶師 蒸氣金師

右細所は横濱坂割の側百七番家作は耕作道真の園に指す者  
が筆の成の水田の草を刈り全山を耕す機を造り及ぶ  
機材より洋文の機材より色吐水の機材の種々の機材より  
洋文の機材より火矢の機材より機材の製造は年々用ひ  
取居二百年来廣東の機材の製造は年々用ひ  
御用着地建の月 作の機材の製造は年々用ひ  
はるがくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
答へ書き着地の日頃より運送の方より運送の方より運送の方より  
横濱千巻  
粵豊

此は英吉利の無量利智新の船来りハルリニア文法書歴史地理書地球儀地圖  
西貝の心は公済の具路書新五書 附録 和蘭佛蘭西の判字一書  
リニシー社の文法書の外内書等書等書等書等書等書等書等書等書  
その中の道員が判字等書等書等書等書等書等書等書等書等書等書  
も判字等書等書等書等書等書等書等書等書等書等書等書等書  
大抵の判字等書等書等書等書等書等書等書等書等書等書等書  
ハルトリー

萬國教師へー 先生日本貴ら子ノ 英學ニナアル者ノ 教授セト下  
分テ 先生子弟ノ 教育ニ熟慣セリ 先生英國カレッジニ於テ 大學  
校ニ修業ス 大學校ニ修業ス 爲ニ多ク 禮儀ヲ得タリ  
故ニ 教授ニ當リ 凡テ 得ルモノ 若シハ 英學ニテ 英國ニ  
趣リシト 故セバ 又 爲ニ 月 幾クモ 教授 材ニ 多ク 分テ 受テ 又 西書  
籍ヲ 持セ せん 者ハ 別ニ 料ニ 受テ 三 指ニ 教セ べシ  
横濱  
百一 巻

御書物所

横濱本甲通千三巻  
日本橋面三行自  
御書物所

京都府下

人民告諭大意

神別の由依と示  
王政乃所造言と論する身は論大意の書  
と著一郡の舟におりて五の系條の事ありて是  
志者一者之を言造言と本力と量切婦女子  
のうと之精を教端と示す身  
但右の言州賣紙の及の事也所別書村と  
勘定書方と及免書中と北を置以指と示す  
たふと示す身

右道山松節紙と示す身  
と示す身

十月

京都海

告諭大意

凡人の萬物の靈... 天地間の粟生... 貴の中  
... 神別を号す... 貴の中  
... 凡係... 貴の中  
... 後... 貴の中  
... 異... 貴の中  
... 此... 貴の中  
... 人... 貴の中  
... 道... 貴の中  
... 神... 貴の中  
... 御... 貴の中

勝

天孫

皇孫

御

象

御

若

皇

美

天

孫

界

御

外國度への若くは父我の命を

御恩澤飽く執事たる志ありしは

斯くも一命の救はれし本も

御國恩を多かるる者ありしは

知も日月の如く思ふに

御國恩の廣大にて極るは

天子様は物にあはれ

天子様の御恩は

あはれに及ばぬ御恩

可なりと御恩ありしは

御威光の御恩ありしは

御威光の御恩ありしは

外國度への若くは父我の命を

御恩澤飽く執事たる志ありしは

斯くも一命の救はれし本も

御國恩を多かるる者ありしは

知も日月の如く思ふに

御國恩の廣大にて極るは

天子様は物にあはれ

天子様の御恩は

あはれに及ばぬ御恩

可なりと御恩ありしは

御威光の御恩ありしは

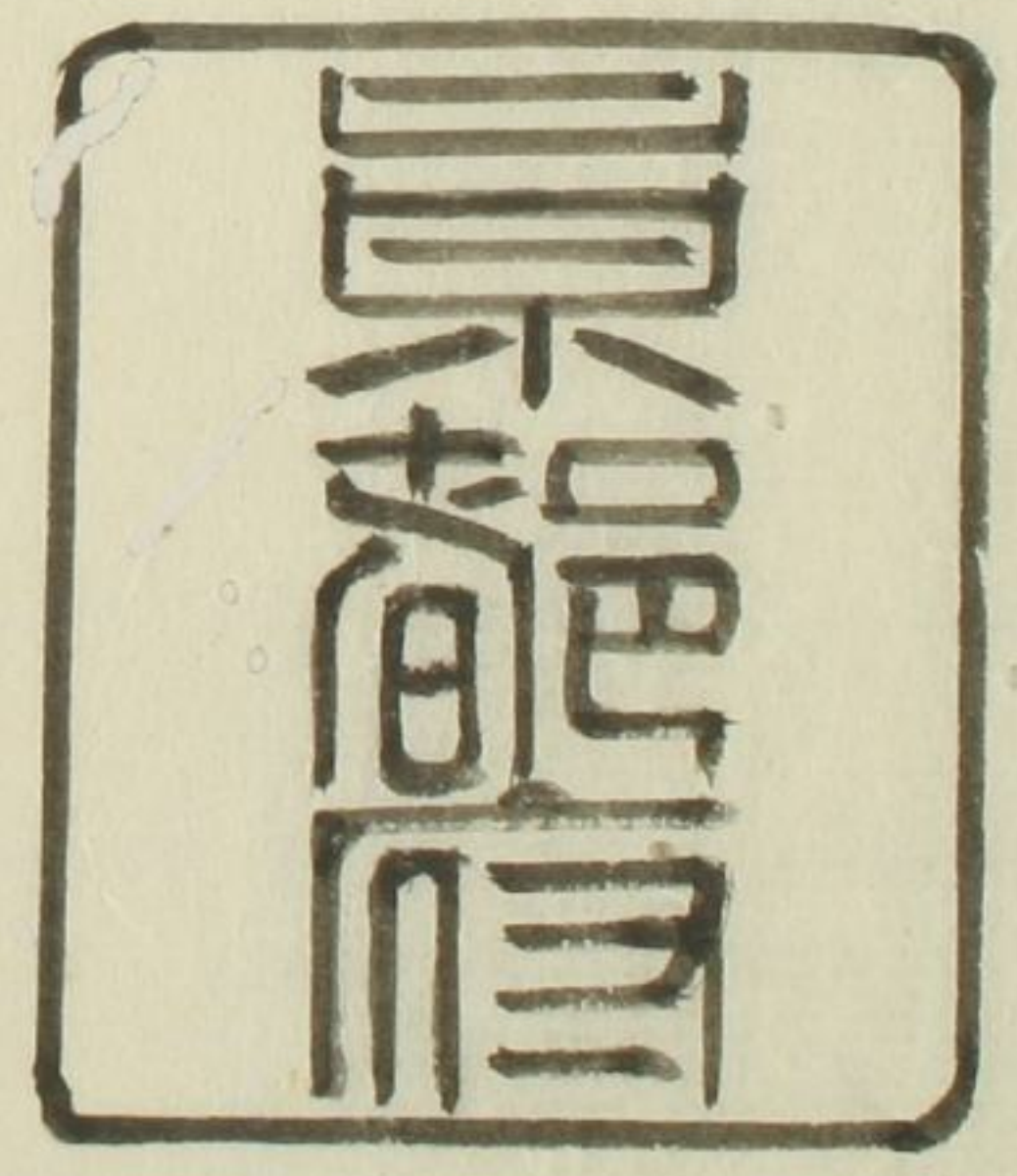
御威光の御恩ありしは





西為の成るべき儀と云由東の  
御湯恩を志すも報奉る  
神州の女を奉る  
此の意し

明治紀元戊辰年



京都府  
下  
人民告諭大意  
二編

先般止論大意を著し

神州の風儀を示

壬辰の御越意を論し今又疏を著し宇内を賑ふ

神州の因是を示し後人の未考を他志を

其旨を爲すと云ふしを初婦女に

敬諭し

任有る書も精書なり

村に前記を論し其旨を

論す

告新大意第二編

去年十月末

行幸大坂高松

御親裁ありしに先帝御遺詔

王化行重に事たり奉才一層御安齋奉

御幸途の先帝陰押遣

先帝三年の御祭期に

還幸御祭由

皇后山天禮等と為り

山東幸御由

玉體の号

有御幸

心は身が都也折方人の時勢を

と和親を結ぶ

萬里を以て

便利のま

各武

藩

公

神

天

神

道

皇



行身もあつせしむ。魚。日若ぬ糸籠の千羽屋未の  
 事城あり  
 御宗廟の山北あはし別て山大切  
 思ふもさかき。海守海も山北作かき海  
 思ふもさかき。海守海も山北作かき海  
 愈々此身高たれ  
 諸事山北は遠背かき。謹く。未守り忠存  
 正義の心儀と振舞。家藏と為す  
 叙るもさかき。奉り  
 神代山北は遠背かき。謹く。未守り忠存

明治二己年



官版

不許翻刻

御用御書物所

京東洞院三條上六甲

村上勘兵衛

取次所

京大坂  
諸國書林中  
在



